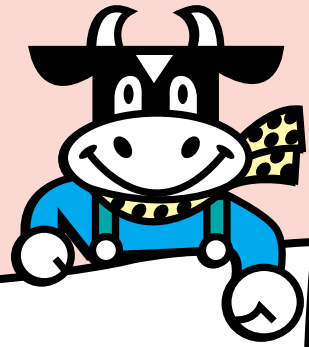




ワンポイント・アドバイス



子牛の蘇生

今回は子牛の蘇生について簡単ですが話したいと思います。

正常産で娩出された子牛は臍帯が自然に切断されると自発呼吸を始めます。また母牛は子牛の呼吸促進のために本能的に子牛の体をなめて乾かします。出生直後の子牛は横臥位ですが呼吸を開始して間もなく頭部を挙げ正常臥位となり30分前後で不安定に起立を試みます。



頭部を挙げたら大丈夫

しかし分娩経過が著しく長時間に及んだ難産などで子牛が仮死状態で出生しているような場合や呼吸はしているが息苦しそう、喘鳴音(ゴロゴロ音)が聞こえる場合は蘇生が必要となります。

羊水を誤嚥して気管内に少量入っている程度ならばくしゃみを誘発させ排出させることが可能ですがさらに奥の肺まで入っているような時は子牛の両後肢を持

ち逆さに吊って排出させる方法が有効だと思えます。こうすることによって誤嚥した時だけでなく胃内に入っている羊水も排出できます。子牛



子牛を吊るします

は出生後早い段階で初乳を飲ませたほうがいいのですが胃内に羊水があるとなかなか自発的に飲もうとしません。吊るすことによって胃内を空にし自発的に初乳を飲むのを促進することにもなります。吊るす時の注意点は10分も20分も長時間吊ったままにしないことです。



後頭部を水で刺激

粘稠性の液体の排出を確認したら直ちに下ろします。長時間吊っていると肝臓、腸管などの腹腔

臓器が心肺を圧迫し、かえって呼吸を妨げ逆効果となってしまうです。

その他、後頭部を冷水で刺激することもあるのですが、ここには延髄という呼吸の中枢があります。



頭部を挙げたら前肢を開脚させ胸腔を広げ呼吸を楽にさせます。また体表が濡れていると子牛自体の熱を奪ってしまうので、布などでよく乾かしましょう。

安定したら適温(13〜27℃)のハッチ等に移動させます。

丈夫な牛作りは子牛が出生したと同時に始まります。子牛が出生するまでは注意しなくてはいけないのは母牛ですが、出生したら注意は子牛に移し分娩時の事故減少に努めましょう。